

No15 短所を補い長所を伸ばす

義高 互

特別支援で今まで考えてきたことは二つあります。

一つは自分の存在意義や価値を見だし、自己肯定観を持たせる事、二つ目は長所を活用し、短所を補うこと、です。特支学校でも、特支学級でも生徒と制作活動を行い評価していただくことを続けてきました。写真の通りです。

それは自分たちの活動を世に出し、評価してもらい、自信を持つことです。

教科学習では他の生徒に比べると自信を失うことが多い生徒たちですが、

長所を見出し、生かし、短所を補う工夫があれば自由度の高い制作活動は出来るのです。

学習のように教科に限定されたり、スポーツのように競技に限定されれば、支援が必要な生徒はできることが限られてしまいます。

制作活動となれば、絵をかいて、単体の絵画にしたり、アニメにしたり、グラフを作成したり、

または作業のように木工、手芸のものづくりまでできます。制限のない制作から、生徒ができる制作活動を選択できるので、可能性が広がります。

例をいくつかあげます。中学校で石鹸づくりをして販売した例。日常生活を記録し、グラフを作りグラフコンクールで入賞した例。自由に絵をかいてアニメにして、賞を受賞した例。

ストップモーションでアニメを創ったりして賞を受賞した例。

これらは、かなりの大舞台で受賞をし、生徒

長所を伸ばし 短所を補う

自分の価値を見つけ自己肯定感を
長所を生かした活動

自由度の高い制作活動 得意な分野が生かせる



特支学校でグラフを作り グラフコンクール応募し 入賞



評価される場面

石鹸制作し 文化祭で販売する



評価される場面



たちが本物の評価だと感じ自信を持ちました。そしてその自信が成長につながっていきました。これについては改めて、その一つ一つを紹介させていただきます。

その中で生徒をよく知り、生徒の長所を活用し、短所を補うことが肝心だと考えます。

まずはその生徒をよく知るための工夫です。

初発の段階でいろんな活動をして適性を確かめてきました。これはある生徒たちの初発の活動での記録です。どの生徒がどんな活動が得意なのか。活動して模索し、記録してどんな活動に長所が生かせるか分析してきました。

これを元にどんな活動ができるのか、試行錯誤を重ねてきました。* *チャート紹介

二つ目は長所を活用し、短所を補うこと です。

制作活動は様々な活動があり、自分の得意なものだけであれば作品ができていくものではありません。

例えば 補うための人的要素を考えていきたいと思います。

一人でできない部分は、どうするの、という部分です。最初に教師と思われそうですが、これはこの際省きます。同じ学級で補いあえる人材がいる事が良いと思われそうです。

これは絵をたくさん描けるけど、文章などは難しいと思われる生徒の場合です。

絵の得意な生徒は絵をたくさん描き、文章能力がある生徒には文章で制作参加してもらおう。

という活動ができました。生徒同士での補い合いがより良いことだったと思います。

絵をたくさん描けない生徒なのにアニメ等の制作をした時がありました。

一つの対策として絵をかかないで、物を少しづつ動かしてアニメにするストップモーション、という技法も使いました。



何が長所？短所？



補いあう級友の制作チーム



生徒の特性を生かしストップモーションという長所を生かした技法で制作する



しかし基本的に絵を描く必要はありませんでした。地域と一緒に制作したいという思いもありましたので、保護者や地域を巻き込んで制作チームを作り、そこで保護者や大人と一緒に活動して補ってもらう、という方策も取りました。

保護者や大人の人に絵を描いたり、制作活動をしてもらったりして参加していただいたのです。これは制作方法としても活動としてもよかったです。地域として、組織としてどんな活動や制作をするのか？

という事についてはまた改めて提示したいと思います。



END